

○一般社団法人 日本森林学会 2019 年度第 3 回（通算第 470 回）理事会 議事録

日時：2019（令和元）年 9 月 24 日（火）13:00～17:00

場所：日林協会館 5 階 中会議室

開催者：黒田慶子

出席者：会長）黒田慶子，副会長）田中 浩，小島克己，理事）玉井幸治，柿澤宏昭，竹中千里，松本麻子，福田健二，大住克博，井鷲裕司，高山範理，佐藤宣子，大久保達弘，大河内 勇，梶本卓也，監事）堀 靖人，主事）南光一樹，岩永青史，滝 久智，吉藤奈津子，岡本 隆，長倉淳子，荒木眞岳，山崎理正，永野聡一郎，竹内啓恵，今村直広，東原貴志，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター]，事務局）稲村崇子，オブザーバー）木暮甲吉 [林野庁]，武田義昭 [林野庁]

議長：黒田慶子

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下のとおりである。

1. 委員の任期の整理

玉井理事及び南光主事から，委員の委嘱状発行において任期を明確にする必要性が説明され，内規の改定に向けて任期をどう定めるか議論された。議論の結果，JFR 常任編集委員及び森林科学編集委員は 3 月 31 日まで，それ以外の委員は 5 月 31 日までを任期とする事となった。

2. 第 130 回大会（新潟大学）会計決算における赤字補填

柿澤理事より，第 130 回大会の会計決算について 6,360 円の赤字であり，利息と手数料を加味した 6,869 円を指定正味財産（大会準備引当資産）から補填することが提案され，提案のとおり承認された。

3. 会計処理内規の改定

柿澤理事より，法人税法（中小企業等の少額減価償却資産の取得価額の損金算入の特例）上の損金に算出できることができる額が 30 万円未満になったことに伴い，消耗品の取得価額について改定することが提案され，提案のとおり承認された。

4. 収入支出内規の改定

柿澤理事より，日本森林学会誌投稿規定の改定（2019 年 5 月 28 日）に伴い日林誌のページ上限及び別刷の著者負担経費について改定すること，学会運営のための自動車による移動を考慮し旅費規定について改定することが提案され，提案のとおり承認された。

5. JFR に関する内規等の改定

伊藤理事の代理として吉藤主事より，日本森林学会誌等刊行規則の改定（2019 年 5 月 28 日）に伴い「Instructions for Contributors (Journal of Forest Research)」のタイトルを改正すること，文書の見直し及び「著作者および第三者による著作権の利用」の改定に伴い「Journal of Forest Research 編集委員会内規」及び「Journal of Forest Research 編集方針」の文書を改正することが提案され，提案のとおり承認された。

6. ウェブコンテンツ管理システムの今後の管理について

福田理事より、ウェブコンテンツ管理システムのバージョンアップに伴い、委託業者のテクニカルサポート継続とライセンス購入のいずれかが必要であることが説明された。議論の結果、今回提示された情報だけでは判断が難しいとし、情報を整理して次回理事会で再審議することとなった。

7. 次期代議員選挙における「多様な代議員の選出のお願い」の文書について

高山理事より、代議員選挙においてダイバーシティ推進に関する周知を図るために同封する文書が提案され、提案とおりに承認された。今後、ダイバーシティ推進によって学会にどのようなメリットがあったのかというプラスメッセージを組み込むことが提案された。

8. 大会公開シンポジウムの森林分野 CPD プログラムへの提供協力について

大久保理事より、大会公開シンポジウムを対象に森林分野 CPD（技術者継続教育）プログラムへの提供協力を実施することが提案された。CPD プログラム認定までの必要日数、大会公開シンポジウムの参加者増加が期待されること、事前及び当日の受付の確保が必要であることが議論され、提案のとおり承認された。第 131 回大会での CPD プログラム提供については大会運営委員会との調整が必要であることを確認した。

9. 前回までの議事録の承認

玉井理事より、2019 年度第 3 回メール理事会議事録が提案され、提案のとおり承認された。

10. 次回理事会・連携学会長合同会議の開催時期

次回の理事会・連携学会長合同会議は 2019 年 12 月に開催することになった。

報告事項：

1. 第 131 回大会（名古屋大学）の準備状況

竹中理事から、大会スケジュール、公開シンポジウム、予算案、懇親会などの準備状況について報告された。会場設営を外部委託したこと、懇親会費が例年よりも高くなること、保育室から託児室に名称が変わることが報告された。理事会での意見により、公開シンポジウムの案内を和文版と英文版の双方を作ることとなった。

2. 第 132 回大会（東京農工大学）の準備状況

土屋俊幸運営委員長の代理として玉井理事より、大会運営委員会を組織したこと、会期は 2021 年 3 月 21 日～24 日とし、3 月 21 日は日本木材学会と合同の公開シンポジウム及び懇親会を予定していること（日本木材学会大会の会期は 3 月 19 日～22 日）、会場は東京農工大学農学部（府中キャンパス）講堂・講義棟等とすることが報告された。

3. プログラム編成担当からの報告

梶本理事から、公募セッション 7 件、企画シンポジウム 12 件の申込みがあったが、プログラム

編成委員会での審議の結果、公募セッション 1 件が企画シンポジウムに変更となり、公募セッション 6 件、企画シンポジウム 13 件が全て採択となったことが報告された。

今村主事から、第 131 回大会での学会企画の募集について報告があった。ダイバーシティ推進セッションが予定されているが、それ以外の学会企画の締め切りを 2019 年 11 月 22 日とするこ
ととなった。論文の書き方、学振申請書の書き方、就職、企業に就職した人の話を聞くなどの案
が出た。

4. 総務担当からの報告

玉井理事より、代議員・理事・監事選挙の実施、科研費（研究成果公開促進費）の応募状況、大会の開催順番、8 件の共催・後援・協賛依頼を承認したことが報告された。2020 年度の科研費は九州森林学会の発案により応募に向けて準備中であるとの報告がされた。今後の科研費の応募は連携学会でローテーションを組むのではなく、毎年希望を募る方式に変えることが提案された。2024 年度以降 10 年間の大会の開催順番については 2019 年 12 月理事会及び 2020 年 5 月総会にて承認されることが望ましく、木材学会との合同大会開催も見据えてローテーションを組むことが提案された。

5. 会計担当からの報告

柿澤理事より、新規備品購入、第 130 回大会（新潟大学）会計決算、2019 年 8 月 31 日までの半期決算が報告された。

6. 日林誌編集担当からの報告

正木理事の代理として滝主事及び町田編集部より、投稿審査状況、論文賞の選考状況、第 102 巻表紙写真の募集について報告された。投稿審査については、投稿数が増加傾向にあること、各号の掲載本数が増加傾向にあること、社会科学系の論文が比較的增加傾向にあることが報告された。

7. JFR 編集担当からの報告

伊藤理事の代理として吉藤主事より、出版状況、特集号として「Long-term monitoring and research in Asian university forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses」（2020 年 6 月掲載予定）が投稿受け付け中、特集号として「Recent advances in symbiotic associations between Frankia and actinorhizal plants」（2021 年 2 月及び 4 月掲載予定）が新企画として採用されたこと、データシェアリングポリシーに「Basic（基本）」を採用すること、論文賞の選考状況について報告された。

8. 森林科学担当からの報告

松本理事より、発行状況、経営担当の編集委員が、田中一生氏（日本森林技術協会）から佐藤顕信氏（日本森林技術協会）に交代したこと、リニューアルワーキンググループの設置、広告獲得状況について報告された。リニューアルは、紙面のフルカラー化、表紙変更、広報誌としての役目を果たすための掲載記事の再編を予定していることが報告された。

9. 広報担当からの報告

福田理事より、メールマガジンの発行状況、jfs-mail のアドレスリストの更新、ウェブサイトの更新記録について報告された。

10. 表彰担当からの報告

井鷲理事より、日本農学進歩賞の応募がなく今年度は学会からの推薦はなしとしたこと、学会各賞の応募状況、農学賞の候補者推薦、次期大会での学生ポスター賞を昨年と同様の方法で審査を行うことが報告された。

11. ダイバーシティ推進担当からの報告

高山理事より、男女共同参画学協会連絡会運営委員会（2019年8月30日）に出席したこと、第17回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（2019年10月12日）への参加を予定していること、第131回大会にて学会企画ダイバーシティ推進セッション「森林学会におけるダイバーシティの実現～だれもが楽しく参加できる学会・大会を目指して～（仮）」を予定していることが報告された。竹内主事より、第130回大会に実施した学会企画ランチョン Workshop で得られた会員からの不安や悩み、要望について報告された。理事会の中で、森林学会においてはダイバーシティの観点から企業や民間の参加が少なく、接点の作り方や門戸の広げ方が必要であるという意見が出た。

12. 林業遺産選定担当からの報告

佐藤理事より、2018年度までにおける林業遺産の選定数（合計35件）、2018年度の林業遺産選定に関連する報道状況（新聞やウェブサイト）、2019年度の林業遺産選定について、選定のスケジュール、林野庁からの後援を取得し公募開始時に各都道府県への周知作業に協力してもらうことが報告された。公表・プレスリリースについて、今年度までは総会開催日に行うこととし、次期以降はメディアのアナウンス効果も考えて別の日（例えば、5月4日みどりの日）への変更の検討を引き継ぐことが報告された。

13. 中等教育連携推進担当からの報告

横井理事の代理として東原主事より、第131回大会における高校生ポスター発表について国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」中央事業の助成が決定したこと、「第6回高校生ポスター発表」受賞校ポスターの学会 Web 掲載への準備、高校生ポスター発表に関するアンケート調査の実施について報告された。高校生ポスター（及び大会公開シンポジウム）の情報にウェブサイトからたどり着きやすくすること、受賞ポスターだけでなく受賞以外のポスターやレジュメのウェブサイト掲載について提案された。

14. 将来構想委員会からの報告

大住理事より、連携学会の会員動向と組織運営に関するアンケートを取りまとめ、連携学会で抱える問題点、既往の対策、取るべき対策について報告された。

15. 林野庁からの報告

武田義昭氏（経営企画課）より，国有林管理経営法等の改正について説明された。

議事録作成者：玉井幸治，南光一樹